



# マナウス

学校教育目標

夢や希望を持って前進する子どもの育成

## 「体験」の価値

校長 宗像 玲

夏休みが明けて 2 週間が経ち、子どもたちはすっかり学校生活のペースを取り戻したようです。今週末には、子どもたちが楽しみにしている「アマゾン体験学習」を予定しています。暑い日が続いており、体調不良による欠席が少し気になりますが、学校でも健康管理にいつそう気を配ってまいります。保護者の皆様におかれましても、引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、日本国内の学校でも、様々な「体験学習」が行われています。小学校では警察・消防署・商店・農家・工場の見学を通し、働く人に直接話を聞いたり、仕事の一部に触れたりする体験をします。また、日本文化を学ぶために華道や茶道、和楽器に触れる体験や、本物の芸術・古典芸能を鑑賞する機会もあります。地域によっては田植えや稲刈りなどの農業体験、修学旅行での漁業体験なども盛んです。中学校における「職場体験学習」も、今や一般的になりました。それぞれの体験には、教科書だけでは学べない「何か」を補うという大切な目的があるはずです。

「子どものためには、お金で物を買うな。体験に投資しろ」という言葉を聞き、なるほどと深く納得したことがあります。物は買い与えてもやがて古くなり、飽きれば捨てられてしまいます。しかし、体験にお金を使えば、そこで得た知識や感覚は必ず次のステップへ生きていきます。子どもたちは、いつ・どこで・どんな体験をしたかという具体的な記憶は忘れてしまうかもしれませんが、それでも、その時々を感じたことの積み重ねが、それぞれの「人格」を形成していくのだと思います。

天才画家ピカソの有名な逸話があります。あるレストランでファンに頼まれたピカソは、わずか 30 秒ほどで 1 枚の絵を描き、それに 1 万ドルの値をつけました。ファンが「たった 30 秒で描いたのに、そんな高額なはずがない！」と怒ると、ピカソは「30 秒ではない。私が膨大な時間をかけて技術を積み上げ、経験を重ねてきたことに対する当然の価値だ」と自信を持って答えたそうです。

私たち大人は、家庭でも学校でも、子どもたちにいろいろなことを体験させ、経験から学んでほしいと願っています。しかし、その成果はすぐに子どもの成長や変化として現れないことも多く、時には「無駄だったのだろうか」と感じてしまうかもしれません。そのような時こそ、一つひとつの体験が子どもたちの心の栄養となり、将来の大きな成長につながることを信じ続けたいものです。今回の「アマゾン体験学習」が、たとえ 2 回目の参加である子どもにとっても、一緒に参加する友達が変わったり、自身の役割や立場が変わったりすれば、そこには必ず新たな気づきや学びがあります。

マナウス日本人学校で過ごすこと、地球の反対側でたまたま出会った仲間がいること、日々の生活すべてが貴重な体験の連続であることを、私たちはつい忘れがちになります。2 学期も、子どもたちの心をしっかりと耕し、たくさんの学びの種をまいてまいります。

